バルプロ酸	613000
	担当部署
バルブロサン	生化

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		特記事項なし
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→薬物→
	2	
	3	
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		添付文書において、採血管の分離剤の影響を受けることがあるとの記載があるが、当院採用の採血管においては影響は認められなかった。 血中薬物に対する分離剤の影響検討試験結果
検査受付時間		8：15～16：00

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	特記事項なし
検体採取の特別なタイミング	トラフ、ピークなどの指示がある場合は、指示通り

	検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-

検体搬送条件	室温
検体受入不可基準	1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体
保管検体の保存期間	冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階　中央検査部
測定時間	当日中～翌日
生物学的基準範囲	設定なし
臨床判断値	40-125μg/mL(治療有効濃度) ナノピア TDM バルプロ酸添付文書

基準値				単位	μg/mL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
40	125	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし

パニック値	高値	設定なし
	低値	設定なし
生理的変動要因		特記事項なし
臨床的意義		バルプロ酸は最も良く用いられる抗けいれん剤の一つで、ナトリウム塩として市販されており、さまざまなてんかん発作に有効である。 血中からの消失半減期が比較的短く、また併用薬や剤型などの要因によっても血中濃度が変化するため、血中濃度のモニタリング(TDM)が行われる。さらに患者のコンプライアンスを知る目的でも TDM が行われる。 空腹時に投与した場合、血中濃度はシロップ剤で 0.5～1 時間、錠剤や顆粒剤では 1～2 時間でピークに達する。投与量の約 40%がグルクロン酸抱合体として排泄され、未変化体として排泄されるのは 3%程度に過ぎない。 フェノバルビタールやフェニトイン、プリミドンなどを併用するとバルプロ酸の代謝が促進されるために血中濃度が低下する場合がある。またカルバペネム系抗生物質とは併用禁忌となっている。 なお、併用によりバルビツール酸剤の濃度を上昇させ、薬理作用を増強させる働きがあるので注意が必要である。 三菱化学メディエンス　検査項目解説改訂第 4 版　164,2008